



第二期新武蔵野クリーンセンター (仮称)施設・周辺整備協議会 視察報告

平成25年3月3日(日)

京エコロジーセンター

1. 視察概要

実施日時

平成25年3月3日(日)
午後13時～午後15時頃

視察場所

京エコロジーセンター
京都市伏見区深草池ノ内町1-3



2. 施設概要

設置者 京都市
 規模 RC造 地下1階地上3階
 延床面積 2,700㎡
 開館 2002年4月21日
 総事業費 約18億円（展示含む）
 運営費 169,169千円（2012年度）
 （うち人件費76,490千円）
 職員数 19名（2012年4月1日現在）
 開館時間 午前9時～午後9時
 （展示は午後5時）
 休館日 木曜日及び年末年始
 利用料 無料
 運営 京都市環境事業協会
 （指定管理者）
 館長 高月紘



3

2. 施設概要

公立小学校の見学が希望制となったため、小学生の見学者は減ったが、入館者全体は海外など外部団体の見学等も含め**増加傾向にある**。

1. 入館者数

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
合計	86,086	83,816	34,210	75,815	69,380	77,879	78,733	80,086	68,981	67,434
累計	86,086	169,902	243,385	319,202	388,582	466,471	545,202	625,288	694,181	761,585
〔内 団体見学：上段 人数、下段 団体数〕										
合計	8,794	6,796	4,670	7,217	7,666	7,564	8,890	5,301	8,714	9,026
団体	207	234	381	347	181	232	271	263	219	176
個人	306	127	128	345	193	583	538	626	1,081	781
海外	5	10	16	12	26	25	37	40	27	27
〔内 上へ学習：上段 人数、下段 学習回数 2002～2003年度は中学程度〕										
合計	19,837	21,827	11,218	11,714	10,954	11,236	13,817	5,586	4,013	5,319
回数	238	258	242	188	182	177	178	89	96	117
〔内 企画展見学者数：上段 利用者数、下段 貸出回数〕										
合計	4,647	4,333	4,896	5,308	5,454	7,167	5,787	5,280	5,433	4,983
回数	172	209	429	472	428	589	581	457	499	481

2. 館外事業参加者（上段：参加者数、下段：事業件数）

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
合計	3,857	11,806	19,093	21,448	9,827	18,283	13,428	25,179	19,720	16,188
回数	27	37	66	107	118	128	142	118	174	141

3. 入館者数と館外事業参加者数の合計

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
館内	86,086	83,816	34,210	75,815	69,380	77,979	78,733	80,086	68,981	67,434
館外	3,857	11,806	19,093	21,448	9,827	18,283	13,428	25,179	19,720	16,188
合計	89,943	94,878	53,303	97,263	79,207	96,262	92,161	105,265	88,701	83,622

4

3. 施設運営

開設経過と運営

1997年12月に京都市で開催された「地球温暖化防止京都会議」(COP3)を記念して、環境学習、環境保全活動の拠点として開設

企画段階から市民参加型とし、市内の環境NPO、消費者・事業者団体の代表者、学識者などによる研究会、企画委員会等が基本計画の策定から開設に至るまでの主体的な役割を果たす。

開設後も上記メンバーに地域団体などを加えて発足した「**事業運営委員会**」が事業の承認や運営の方針の決定など事業運営の基本を担う。

環境ボランティアを養成し、来館者への施設案内やイベントの企画・実施、展示の改善などセンター事務局との協働により施設を運営。

主な事業内容

環境学習プログラム作成	環境保全活動助成
環境ボランティア活動支援	環境啓発
親子エコセンクラブ	情報発信と地域社会への提案
外部イベント出展	

3. 施設の運営

「**エコメイト**」と呼ばれる環境ボランティアが約50名強活躍

3年の任期制とし、任期終了後は地域での環境活動への従事を目標とする。

主に**コミュニケーションを重視した計8回の研修**を受けた後に登録

「エコメイト」とは?

本センターが主催する環境学習のボランティアです。環境学習の推進から、イベントの開催を支援して、環境保全活動の推進に貢献します。活動の範囲は、本センターの施設内外です。

環境学習 環境学習の推進に貢献します。



「エコメイト」は環境学習の推進に貢献しています。環境学習の推進に貢献しています。

イベント支援 イベントの開催を支援します。



環境学習の推進から、イベントの開催を支援して、環境保全活動の推進に貢献します。

環境保全活動 環境保全活動の推進に貢献します。



環境学習の推進から、イベントの開催を支援して、環境保全活動の推進に貢献します。

その他 その他、環境学習の推進に貢献します。



環境学習の推進から、イベントの開催を支援して、環境保全活動の推進に貢献します。

こんな方法で登録!

- 人と話す事を楽しむのが好き
- 環境学習に興味がある
- 公民館の展示や研修を支援したいと考えている

「エコメイト」の登録

登録条件は、京都市在住の18歳以上の国民です。また、環境学習の推進に貢献したいと考えている方が対象です。

1. 申込書・写真を提出
2. 面接
3. 研修
4. 登録

研修内容

- 研修1: 環境学習の推進
- 研修2: 環境学習の推進
- 研修3: 環境学習の推進
- 研修4: 環境学習の推進
- 研修5: 環境学習の推進
- 研修6: 環境学習の推進
- 研修7: 環境学習の推進
- 研修8: 環境学習の推進

以上、本センターが主催する環境学習のボランティアです。環境学習の推進から、イベントの開催を支援して、環境保全活動の推進に貢献します。

3. 施設の運営

ボランティアの役割

エコメイト - 京エコロジーセンターで活動するボランティア

役割: 展示の解説、イベントの企画・実施・サポートなど

エコサポーター - エコメイトの卒業生のボランティア (現在150名程度)

役割: 地域での環境活動、エコメイトのサポートなど

ボランティアの活用の意義

ボランティアのコーディネートは時間もお金もかかる……

・**「人づくり」の重要性** ・環境活動の輪を地域へと広げていく

7

4. 施設コンセプト

4つのコンセプト

- ・見て、触れて、感じる「体験型展示」 ・建物全体がエコ展示
- ・パートナーシップによる学習と活動 ・みんなにやさしい施設をめざして

フロアガイド

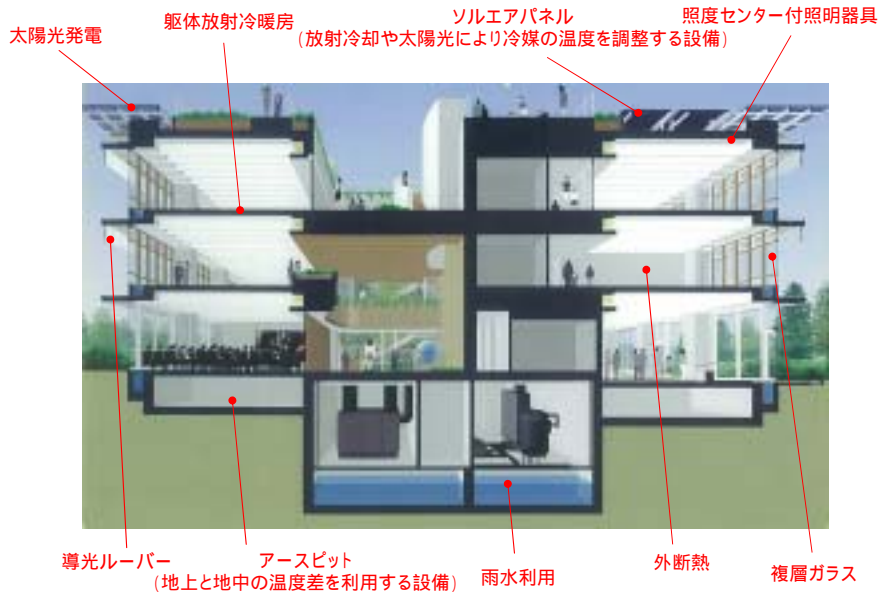
- 1F 「気づいて」 エントランスホール、シアター、エコロジー体験コーナー、常設展示
- 2F 「学んで」 企画展示・ワークショップコーナー、事務室、活動支援室
- 3F 「活動する」 交流コーナー、環境図書コーナー、こどもひろば、リサイクル工房、エコ厨房、会議室、印刷作業室



8

5. 建物について

建物の各所に**環境に配慮した取り組み**がなされている。**建物そのもの「展示物」**
実験的に色々な省エネルギー化、CO2削減の工夫がされている 30%のCO2削減に成功



9

5. 建物について

実際の効果よりも**考え方や仕組みを知る**ことに重きを置いている。



太陽光発電



ソルエアパネル



放射冷暖房のチューブ



風力発電

10

6. 展示について

ターゲットは専門家以外 「むずかしいことをわかりやすく伝える」

体験を重視した展示



箱を開けながら学習できる展示



ミズによる生ごみ処理



1日の水使用量をペットボトルで表した展示



ごみの処理にかかる費用の展示

11

6. 展示について

<エコ虫探し>

環境に配慮したポイントに「エコ虫」を目印として設置

施設内30か所程度に設置し、子供たちが楽しみながら環境への取り組みを学べるよう工夫



外断熱



照度センサー

12

7．環境活動

< 屋上における取組 >

ボランティアが自ら育成したビオトープの設置
畑や小さな水田を設けて子供たちの体験の場を提供



13

7．環境活動

< 環境団体支援のための取組 >

環境団体向けに無償にて印刷機、紙折り
機を貸出（紙は有償）



< 環境に関する図書スペース >

環境に関する図書を自由に閲覧できる図
書スペース



14

8. 質疑応答

任期後のボランティアはどのような活動を行っているのか。

任期後のボランティアの方が立ち上げた環境団体が3つあり、1つは京都市より業務を頂くほど本格的なものとなっている。他のボランティアも、後輩の育成であったり、繁忙時にお手伝いをいただくなど活躍頂いている。

ボランティアは近隣から来ているのか。

京都市の南部に位置しているため、宇治市などから来ている方もいる。最も遠い方は神戸から来ている方もいる。

二酸化炭素削減の取組のためにどのような活動を行っているのか。

建物の環境配慮として排出量の削減には努めているが、具体的な二酸化炭素削減は、京都市の当該部署が実施している。当センターは、環境に関して意識の高い人を育てていくことが役割と考えている。

京都大学等との連携は行っているのか。

当センターの対象は小学生や一般市民であるため、専門的な見地での活動は行っていない。

人件費以外の費用はどのようなものがあるのか。

事業費が500万円、建物維持管理費が500万円程度となっている。

センターの人材育成により何らかの成果はあるのか。

訪問者の追跡調査を実施しているわけではないが、市職員の新卒者向けの研修においてセンターの訪問を記憶している職員が数名いた。こういう形で少しずつ広がっていくものと考えている。

センターができたことにより周辺環境に変化はあったか。

もともと科学館等がある敷地であったため、センターによる大きな変化はない。ただ、名神高速の壁面を緑化するなどの取組は行っている。

15

9. 参考になったポイント（事務局）

目標設定

「人づくり」 「エコメイト」 地域活動へ

ターゲット

「むずかしいことをわかりやすく伝える」

見せ方

「建築自体が展示物」（メンテナンス費用）

活動とリンクした空間

ピオトープ、畑、田んぼなど

広報

「えこせん」の発行、新聞折込み、市営地下鉄31駅に設置

イベント

きっかけづくり

（環境問題に無関心な人にも関心を持ってもらえるような多様な切り口のイベント）

運営手法

指定管理期間が4年であり、中長期の視点に立った計画づくりや運営が難しい。

16